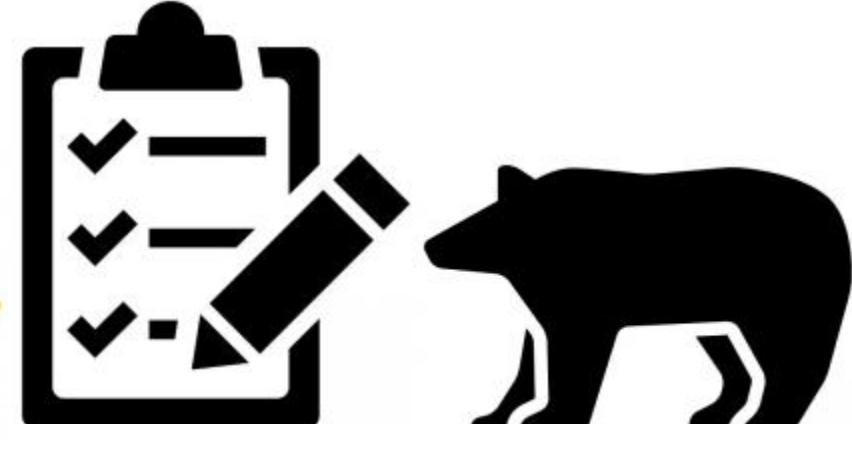


野生動物の保護・管理ができる人間になるために その先進国アメリカを見る。

こんにちは。石川県立大学環境4年の大西です。今回は私の留学について報告します。普通の学生の私が留学したことを知って、留学がより身近なものと感じて頂けたら嬉しいです。



留学の概要

NEVADA DEPARTMENT OF WILDLIFE

(日本でいう政府の野生動物部門)

で働く公務員さん(熊専門)のお仕事についていき野生動物の専門知識だけでなく「何をしているのか」「どんな考えなのか」など人々の働き方も学びました。



みなさんは



という海外留学支援制度をご存知ですか？

政府だけではなく、官民(政府と民間企業)協働のもと社会総掛かりで将来世界で活躍できるグローバル人材を育成する「留学促進キャンペーン」です。

学力関係なしの審査をパスしたトビタテ生たちは、日本代表として、海外で学び、活躍する機会を得ます。

このプログラムの代名詞といえるのが、返済不要の手厚い奨学金制度です。

トビタテ生は渡航先、帰国後の金銭的不安がないまま、自分の活動に集中することができます。

私はこの制度を使って留学を実現させました。



活動紹介

Human-Bear Conflict Specialist

(人と熊との問題解決専門家)のHeather氏は、毎日(時には休日出勤)熊の問題に取り組んでいました。

日本と違って、アメリカではかなり専門的な知識を持った生物学者が、公務員として野生動物の問題に取り組んでいました。

私が感じたのは、

アメリカは野生動物に対する意識が文化・制度からして日本と違う

ということ。生物学者にとっては、アメリカの方が、断然安定した職があって、インターンシップもあって、生物学者が生物学者として住みやすい環境が整っていると思います。正直、その道を目指す私にとって日本よりアメリカで暮らす方がいいなあと思うことがたくさんありました。



アメリカ楽しい!

今回の渡航では、2ヶ月という短い期間の中で異文化体験をたくさんしました。これも留学の醍醐味ですね! \('ω') /



留学の成果 インターンシップで石川県白山自然保護センターにて留学先と同様に日本の活動を見学しました。日本では野生問題に関する課題、その課題解決についてくる課題など、多くの問題が山積しています。

野生動物保護管理先進国のアメリカを知り、日本の解決すべき難題を知りました。その経験を活かし、私は日本の野生動物関係の社会を変えたいと思っています。そう思えたのが、私の留学の成果です。

現在は、学生の段階ではまだ専門知識も経験もないので、自分の言動に説得力を持たせるために専門知識を勉強しているところです。



謝辞

トビタテ留学JAPAN! 協賛企業様、関係者の皆様、受け入れ先を探していただいた大学の先生方のご協力がなければ留学は実現しませんでした。心より感謝申し上げます。

Heatherがホストとして受け入れてくれたのは、彼女が学生の時家に泊まり込みで学習させてくれた生物学者がいたからとのことでした。

私も将来、次世代の学者に知識や経験をバトンパスができればなと思います。

